

RFIDサポート

RFID統合プロファイルを構成するには、次の役職が必要です。

- 一般システム管理者

RFIDリーダーを使用して、アイテムのバーコードをスキャンしたり、チェックアウトやチェックインの登録を行うことができます。RFID統合プロファイルが追加されると、現在の場所ドロップダウンからロケーションが選択されている間は、メインメニューバーに接続アイコンが表示されます。

Note

RFIDアイコンは、RFID統合プロファイルがアクティブとして定義および設定され、場所を選択した場合にのみ表示されます。

RFID対応デバイス

サポートされているRFIDデバイスのリストについては、<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/rfid>を参照してください。

他のベンダーがAlmaとどのように統合できるかについては（ベンダー側での開発が必要な場合があります）、https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/rfid/information_for_rfid_vendor/を参照してください。

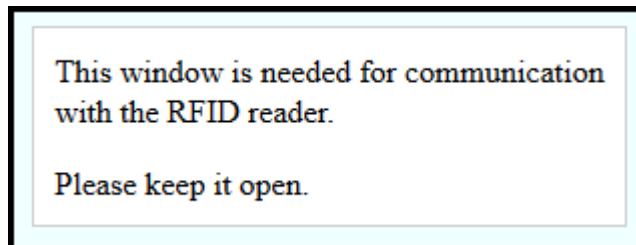
RFIDを使用してアイテムのバーコードを読み取る。

RFID接続が現在アクティブでない場合は、灰色に表示されます:



アイテムのバーコードを読み取るための **RFID**使用方法:

1. 接続アイコンを選択して、RFID通信ポップアップウィンドウを開きます。これによりリーダーとの通信が可能になり、リーダーとの間で読み書きするためには開いておく必要があります。



メニューバーの接続アイコンがアクティブに変わり、



接続が確立されたことを示します。アクティブな接続は、ユーザーとデスク/部門ごとに維持されます。新しいデスクに切り替えるときは、接続アイコンを選択して接続を再度アクティブにする必要があります。

2. RFIDのリーダーアイコンを選択します（



) RFIDリーダーを有効化するために、検索バーの横にある青いアイコンを選択して、現在カウンターにあるアイテムのバーコードを読み取り、アイテムを表示します。



RFID接続がアクティブである限り、バーコードを受け入れるすべての入力ボックスに青いアイコンが表示されます。これらのボックスは次の場所にあります：スキャンイン、返却アイテム、ユーザーサービス、リポジトリ検索、新規資料の受領、冊子アイテムエディター、クイック目録、永続検索（Alma全体）。

さらに、バーコードを読み取るためのアイコンがある画面でキーボードショートカット **Alt+A**を使用すると、リーダーがアクティブになり、リストが表示されます。

冊子アイテムを検索すると、検索結果にRFIDセキュリティステータスが表示されます。

RFIDを使用してマルチパートアイテムをスキャンするときに一部のリソースがスキャンされていない場合、スキャンされていないアイテムリソースがあることを示すメッセージが表示されます。

RFIDリーダーでアイテムをスキャンおよび貸出すると、RFIDタグのセキュリティビットが無効になります。アイテムを返却すると、セキュリティタグが再度有効になります。

RFID統合プロフィールの設定

RFID統合プロフィールを設定するには：

1. 統合プロフィールリストページ（設定メニュー>一般>外部システム>統合プロフィール）で、統合プロフィールを追加を選択します。統合プロフィールウィザードの最初のページが開きます。
2. プロファイルのコードと名前を入力します。
3. 統合タイプドロップダウンリストから、RFIDを選択します。

Integration Profile

Code * RFID Name * RFID

Integration Type * RFID System *

Default

Description

統合プロフィール-ステップ1でRFIDを選択

4. システムドロップダウンリストから使用中のRFIDシステムを選択し、次へを選択します。サポートされているシステムは次のとおりです（[RFIDサポート](#)を参照）：
 - Bibliotecha-Liber8Connectリンク
 - 3M - 896
 - セレット
 - Nedap

- その他

Note

システムのリストから【その他】を選択すると、システムの詳細を示す、【システムの説明】フィールドが表示されます。

5. オプションで、【説明】でプロファイルの説明を追加します。

Note

この【デフォルト】フィールドは現在機能していません。

6. 次を選択します。ウィザードの2ページ目が開きます。

統合プロファイル-ステップ2

7. これをアクティブなRFID定義にするには、アクティブチェックボックスをオンにします。注：プロファイルはデフォルトでは無効です。
8. サーバーURLで、次のように、ご使用のRFIDデバイスが接続されているRFIDシステムのURLを入力します：
 - **3M™ RFID** スタッフ ワークステーション用 (**モデル896**): <http://localhost:5000/TagService>
 - **Bibliotheca**の場合:: <http://localhost:5000/BibliothecaRFIDPadService.svc>
 - **Nedap**と **Seret**: NGINX が必要ない場合は、例えば、RFID ドライバーに直接リンクできます。
<http://localhost:1801>
 - **NGINX**を使用した**Nedap**の場合 <http://localhost:5000/NedapRfidWebService.asmx> : (ローカルホストのNGINXはメインサーバーにプロキシする必要があります)。
 - **MK** ソリューションの場合: <http://localhost:4039/mkStaffStation Alma>
 - **1**つの中央サーバーをサポートし、リクエストをリーダーにプロキシする他の統合の場合:<https://server-addressport/path> (**https**である必要があります)

Note

その他情報については、次を参照してください。 [Alma – 開発者ネットワークへのRFID統合。](#)

9. 3Mの場合 - 896 のみ、タグフォーマット値フィールドが表示されます。関連する デバイスのタグ形式については、RFID サプライヤーにお問い合わせで、このフィールドに入力してください。
10. RFIDリーダーで複数のアイテムを受け入れるには、【複数のアイテムを処理する】を選択します。

- もしシステム（前ページの欄）は[その他]の場合、[アイテム情報の更新] オプションが表示されます。AlmaがRFIDタグのアイテム情報を更新する際、RFIDタグを更新しAlmaを有効にするには、このオプションを選択します。
- 次の定義を設定および/またはレビューします。

Note

- Nedapシステムはチェックインとチェックアウトにのみ使用され、タグ自体の更新は許可しません。したがって、マッピング定義はNedap RFIDプロファイルでは使用できません。
- 統合プロファイルのページ1のシステムフィールドで**その他**が選択された場合、**アイテム情報の更新**フィールドが表示されます。この場合、定義はチェックボックスを選択した後のみ表示されます。
- IPをRFIDリーダー用に設定する必要がある場合、たとえばNedapと作業する時や、Almaその他RFID統合プロファイルタイプと統合する一部のRFIDペンダーと作業する時に、リーダーIPも貸出・返却受付設定で設定する必要があります。[貸出・返却受付の追加](#)を参照してください。

- RFID資料タイプ定義（以下の[RFID資料タイプ定義の設定](#)セクションを参照してください）
- RFIDアイテムポリシー定義（以下の[RFIDアイテムポリシー定義の設定](#)セクションを参照してください）
- AlmaフィールドへのRFIDフィールドのマッピング（以下の[AlmaフィールドにRFIDフィールドをマッピング](#)セクションを参照してください）

- 保存を選択します。

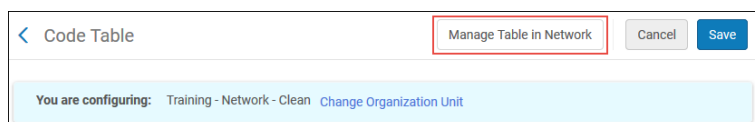
RFIDの設定の詳細については、<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/rfid>を参照してください。

RFID資料タイプ定義の設定

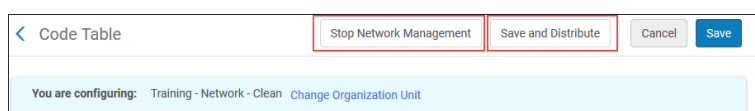
ペンダーが使用するRFID資料タイプコードを、AlmaのRFIDマテリアル・タイプコードテーブルで現在定義しているアルファベットの資料タイプコードにマッピングできます。RFID資料タイプコードテーブルは、冊子資料タイプコードテーブル定義を使用します。詳細については[冊子アイテム資料タイプ説明の設定](#)を参照してください。

RFID資料タイプコードテーブルを設定するには：

- 統合プロファイルリストページ（[設定メニュー](#) > [一般](#) > [外部システム](#) > [統合プロファイル](#)）で、RFID統合プロファイルを開き、**RFID資料タイプ定義**リンクを選択します。RFID資料タイプコードテーブルページが表示されます。ネットワーク環境では、ネットワーク内のテーブルの**管理**オプションが表示されます。



ネットワークでの**RFID資料タイプコードテーブルの設定**-ネットワークでテーブルを管理ボタン



ネットワークでの**RFID資料タイプコードテーブルの設定**-ネットワーク管理の保存と配布/停止

- 新規コードテーブル行作成セクションで、コードドロップダウンリストから既存の資料タイプコードのいずれかを選

択し、説明用のペンダーのRFIDコードを入力（必須）し、行を追加を選択します。ペンダーの数値を割り当てたいRFIDリーダーに、各Alma資料タイプの行の追加を続けます。

Enabled	Move Up	Move Down	Code	Description	Default Value	Updated By	Last Updated	
<input checked="" type="checkbox"/>			Book	01	<input checked="" type="radio"/>	admin	23/07/2017	...
<input checked="" type="checkbox"/>	▲	▼	DVD	02	<input type="radio"/>	admin	23/07/2017	...
<input checked="" type="checkbox"/>	▲	▼	Video Recording	03	<input type="radio"/>	admin	23/07/2017	...

追加されたRFID資料タイプ行

ドロップダウンリストで提供されるものに加えて、新しい資料タイプを作成する必要がある場合は、冊子資料タイプコードテーブル設定オプションを使用します。詳細については[冊子アイテム資料タイプ説明の設定](#)を参照してください。

3. カスタマイズ（または、このコードテーブルを以前に編集したことがある場合は保存）を選択します。

RFIDアイテムポリシー定義の設定

ペンダーが使用するRFIDアイテムポリシーコードを、RFIDアイテムポリシーコードテーブルのAlmaで現在定義しているコードアルファベット順のアイテムポリシーにマッピングできます。

RFIDアイテムポリシーコードテーブルを設定するには：

1. 統合プロフィールリストページ（設定メニュー>一般>外部システム>統合プロフィール）で、RFID統合プロフィールを開き、RFIDアイテムポリシー定義リンクを選択します。RFIDアイテムポリシーコードテーブルページが表示されます。

ネットワーク環境では、ネットワーク内のテーブルの管理オプションが表示されます。

< Code Table Manage Table in Network Cancel Save

You are configuring: Training - Network - Clean [Change Organization Unit](#)

ネットワークでのRFIDアイテムポリシーコードテーブルの設定-ネットワークでテーブルを管理ボタン

< Code Table Stop Network Management Save and Distribute Cancel Save

You are configuring: Training - Network - Clean [Change Organization Unit](#)

ネットワークでのRFIDアイテムポリシーコードテーブルの設定-ネットワーク管理の保存と配布/停止

2. 新規コードテーブル行作成セクションで、コードドロップダウンリストから既存のアイテムポリシーコードのいずれかを選択し、説明用のペンダーのRFIDコードを入力（必須）し、行を追加を選択します。ペンダーの数値を割り当てたいRFIDリーダーに、各Almaアイテムポリシーの行の追加を続けます。

Enabled	Move Up	Move Down	Code	Description	Default Value	Updated By	Last Updated	
<input checked="" type="checkbox"/>			1 Day Loan	01	<input checked="" type="radio"/>	admin	23/07/2017	...
<input checked="" type="checkbox"/>	▲	▼	Two Hour Loan	02	<input type="radio"/>	admin	23/07/2017	...
<input checked="" type="checkbox"/>	▲	▼	Interlibrary Loan	03	<input type="radio"/>	admin	23/07/2017	...

追加されたRFIDアイテムポリシー行

3. カスタマイズ（または、このコードテーブルを以前に編集したことがある場合は保存）を選択します。

Alma アルマフィールドへのRFIDフィールドのマッピング

RFIDフィールドのAlmaフィールドへのマッピングリンクには、RFIDフィールドマッピングテーブルの設定が表示されます。このページの設定により、RFIDタグに書き込まれる情報が決まります。このページから、RFIDタグへの書き込みが有効になっているフィールドを確認できます。さらに、各RFIDタグフィールドにマッピングされた次のAlmaフィールド設定のいずれかを確認できます。

Barcode
Call number
ISSN / ISBN
Is magnetic
Item policy
Library code
Location
Material type
N/A
Pieces
Title

マッピング可能なAlmaフィールド

フィールドマッピングをカスタマイズする必要がある場合、RFIDタグに書き込むことができるフィールドをカスタマイズする必要がある場合は、サポートにお問い合わせください。

Note

RFIDマッピングフィールドテーブルのフィールドライブラリと場所は無効にできません。
図書館と場所が送信されないようにRFIDアイテムの更新を構成する必要がある場合は、値N/Aを入力します。

RFID用の図書館コードの設定

ベンダーが使用するRFID図書館コードを、AlmaにてAlma図書館設定で現在定義しているアルファベット順の図書館コードにマッピングできます（[\[設定メニュー\]](#) > [\[一般\]](#) > [\[図書館セクション\]](#) > [\[図書館の追加または図書館情報の編集\]](#) と進み、[図書館](#)タブを選択し、それからコードを追加する[図書館](#)を選択します）。

Note

- RFID用コードフィールドは、RFIDコンテンツに書き込みするために設定する必要があります。
- このフィールドは、[「RFIDを使用してアイテムのバーコードを読み取る」](#)で説明されているように、RFID接続がアクティブな場合にのみ表示されます。

Summary | Contact Information | Calendar Management | IP Definitions

General Details

Organization unit name * ⓘ

Base Url -

Description ⓘ

Default location for acquisition

Campus

Proxy

Code for RFID

RFID図書館コード

詳細については、[機関図書館の追加/編集](#)を参照してください。

RFID用場所コードの設定

ベンダーが使用するRFIDロケーションコードを、Almaロケーション設定のAlmaで現在定義しているアルファベット順のロケーションコードにマッピングできます（[\[設定メニュー\]>\[フルフィルメント\]>\[場所\]>\[物理的な場所\]](#)特定のライブラリを構成する場合）。RFIDの場所コードフィールドは、RFIDコンテンツに書き込みするために設定する必要があります。このフィールドは、RFID接続がアクティブな場合にのみ表示されます。

Physical Locations List

1 - 12 of 12 🔍 Add Location +

Code	Name	Location Type	
1	offsite	Building 9	Remote Storage
2	RESERVES	Course Reserves	Closed
3	govdocs	Government Documents	Open
4	internat	International Collection	Open
5	edu-juv	Juvenile Education Collection	Open
6	LOCAL	Local History Collection	Closed
7	MEDIA	Media Collection	Open
8	microforms	Microform Room	Open
9	per-room	Periodicals	Open
10	RARE	Rare Books Collection	Closed
11	reference	Reference	Open
12	main	Stacks	Open

Location Code *

Location Code for RFID

Location Name *

External Location Name

Location Type *

Remote Storage

Fulfillment Unit

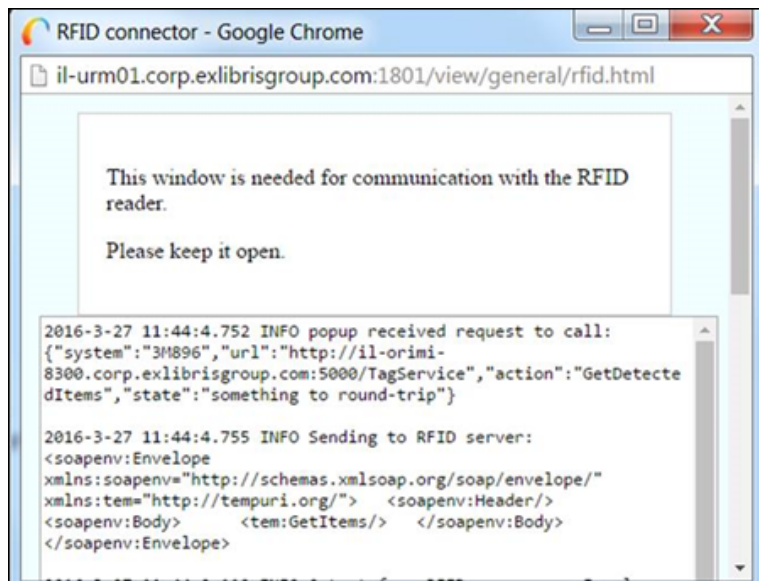
Call Number Type

RFID場所コード

詳細については、[冊子の場所の設定](#)を参照してください。

取引ログ

接続アイコンを選択すると開くRFID通信ウィンドウを展開して、リクエストと応答のRFID取引アクティビティのリストを表示できます。このログを使用して、RFID通信で失敗した取引を解決します。送信する可能性のあるRFID Salesforceの発行にこのログのコピーを含めます。



RFID通信ウィンドウの取引ログ

詳細については、<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/rfid>を参照してください。

複数のアイテムのスキャン

統合プロフィールで[複数のアイテムを処理する]チェックボックスをオンにすると、RFIDはスキャンを単一のアイテムとして、または次のように複数のアイテムで処理できます：

RFIDボタンを押すと、RFIDパッド上のアイテムが処理されます。処理が完了すると、概要確認ポップアップが表示され、正常に処理されたアイテムの数の詳細と、スキャン中に発生したアラートが表示されます。すべてのアイテムが正常に処理されると、成功メッセージが表示されます。アイテムにアクションが必要な場合、**[確認]**または**[キャンセル]**を選択するまでプロセスは一時停止されます。**[キャンセル]**を選択すると、特定のアイテムの処理のみが停止します。マルチスキャン処理が完了すると、処理の概要が表示されます。アクションが必要なアイテムは、失敗した、またはキャンセルされたアイテムの下に表示されます。注意が必要なアイテムの下に、アクションを必要としないアイテムが表示されま



マルチスキャンの概要

RFIDパッドに単一のアイテムまたは複数のアイテムがある場合、次のページのRFIDボタンを使用できます：

- アイテムをスキャンする
- [アイテムをスキャンする] > [アイテム情報を**変更する**] - このタブでは、以下の状況を除いて、上記のように複数のアイテムを処理できます；

- 新しいバーコードが作成されたとき。
- RFID統合プロフィールがアイテムを更新するように設定され、**[RFIDの更新]**がタブで選択されている場合。
- ユーザーサービスの管理 > [貸与]タブ
- ユーザーサービスの管理 > [返却]タブ
- アイテムを返却する

Bibliothecaの場合、これは、**staffConnect**リンク（統合プロフィールでその他のタイプを使用）または**D-Tech**を使用する場合にのみサポートされます。**StaffConnect**リンクの詳細については、support-ch@bibliotheca.comにお問い合わせください。サポートされているRFIDベンダーのリストについては、開発者ネットワークの[Alma - RFID統合](#)を参照してください。

マルチスキャン機能は読み取りのみに適用され、更新には適用されません。さらに、マルチスキャンがサポートされていない[アイテムをスキャンするチャンス]タブの状況に注意してください。